

令和6年度第2回森町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進委員会 議事録

日 時 令和6年12月26日(木) 14:00～15:20

場 所 森町公民館 1階中会議室

出席者 別添委員会名簿のとおり

概 要 以下のとおり

1. 開 会

川村企画振興課長より挨拶

2. 委員長挨拶

遠藤委員長より挨拶

3. 議 事

① 令和6年度第1回委員会（書面開催）の意見対応表について

第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略掲載事業調書の進捗状況に係る意見対応表を用いて、事務局から各委員より寄せられた意見及びその回答について説明。

～委員意見～

遠藤委員長

まず私からだが、「UIJ ターン新規就業支援事業」に係る移住支援金について、そもそも町内企業はこの取組を知っているのか。

事務局

マッチングサイトの登録に協力いただいている企業は知っているが、その他の企業への周知の浸透については把握できていない。

遠藤委員長

できればある程度の規模の企業については相談してもらえればと思う。

② 第3次戦略の策定に向けた概要と戦略素案について

第3次戦略策定に係る概要及び素案について説明し、意見を聴取。

～委員意見～

遠藤委員長

あまりデジタルという部分にこだわらなくていいと思う。私も大学で学生に対し、「何でもIT化すればいいのではなく、IT化によりどのようなメリットがあるか、またそれがコストを上回らなければ意味が無い」と話している。都会・地方それぞれ適したものを考える必要があると思うが、今の時代では大体ITやデジタル結びつく面もある。デジタル田園都市国家構想に近いイメージは、マイナンバーカードを使ったコンビニでの証明書交付のようなイメージでいいと思う。

岩島委員

私も同様に考えていた。デジタルを盾に何でもデジタルで解決できるかのようなイメージがあるがそうではないと感じている。掲げている目標に対してデジタルで何が可能かを探っていくという形でいいのではないか。それが業務の効率化や人員削減のきっかけになると思う。

例えば仕事をつくるのではなく、地方でも都市部の仕事ができる環境をつくるということも一つの案ではある。デジタルインフラを整備し移住者増加に繋げることも一つの手であると思う。

佐藤委員

知人の話だが、本社が東京にあるが森町でのテレワークを行っている方がいる。また、そのような選択肢が無く、仕事を辞めた方もいる。そのような方々のための環境が整備できればと思う。

谷内委員

デジタルかどうかはわからないが、現在町内の会社でふるさと納税のお礼状の製作を受注していただいている。昨年までは東京や札幌の企業に発注していたが、その会社ができることにより、森町で仕事・雇用が生まれたということで、都会の仕事が森町に来たという部分に当てはまるのではと思う。

伊藤委員

まず総論として、話は一つ戻るが意見対応表内の8番について、20年後の人口は7,500人を切るとされておるが、今までの施策の進め方では人口減少に対する改革は厳しいと思うので、中長期的な視点で考えてもらいたい。国のデジ田構想についても既に先事例等があるので、一から考えることも大切だが、事例から森町に当てはまりそうなものを参考にするのも良いと思う。また、先ほど岩島委員からも意見のあったデジタルによる効率化について、役場だけでなく外部からのアドバイス・支援を受けながら考えてみるのも良いと思う。

次に各論について、素案の中の基本目標に「地方に仕事をつくる」とあるが、私の取引先の企業によくあるのが人手が足りないという問題である。現在働いていないが働きたいという方も見られるので、そういった人員を確保できるような施策が必要だと思う。また、デジタルの部分についても、例えば子どもの予防接種等に係るプッシュ通知が来るようなシステムの導入、一人暮らしの高齢者にAIと会話できるアプリを内蔵したタブレットを貸し出す、というような取組を行っているところもあるので町にあったものを検討してほしい。人の流れについても、道の駅が近隣の町と比べて見劣りする部分があるのでもう少し何かあればと思う。

遠藤委員長

先行事例を参考にするという部分はその通りであると思うので、後はコストパフォーマンスが良ければ検討すべきである。子育ての部分についても、定期的な予防接種等の通知があればと思っていた。

岩島委員

町でというより国での話になるが、「お薬手帳」のようにマイナンバーカードに紐づければ解決できるのではと思う。

事務局

伊藤委員の総論での意見についてお答えさせていただく。1点目に中長期的に視点でとあったが委員のおっしゃる通りで、森町では第1次の戦略作成時より2060年の総人口10,000人を目標に今日まで続けてきた。ただし、振り返った中で人口減少が急激に加速しており、当初は「人口減少に歯止めをかける」としていたが、「人口減少のカーブを緩やかにする」という方向性にした方がいいのではと考えている。第3次においては中長期的な視点で方向修正をし、現状にあった目標にする予定である。

2点目の先行事例についてもその通りで、国でも各事例を公表しているので、何が森町に合うか注視していきたい。

3点目に外部からの支援について、数年前から行政単独で考えても限界があるということで、例えば当課でも国の人材支援を受けて事業を進めている。他の分野でも国から財政面や人材面での支援をなるべく活用していきたい。

伊藤委員

人口減少の部分だが、既に結構な進行具合なので、シュリンクした部分に合わせながら施策を進めていくことも中長期的な判断の一つであると思う。

事務局

おっしゃる通りで、人口規模が縮小したらそれに合わせてサービスを考える必要があるので、本委員会でも意見等いただきながら進めていきたい。

森永委員

中長期的な観点ということで人口減もそうだが、新幹線の延伸により森駅がスルーされることもあり、「人の流れをつくる」「魅力的な地域をつくる」という考えは良いと思うので、デジタルも絡めてSNSでインフルエンサーに発信してもらおうといったことも必要だと思う。また、伊藤委員の話にもあった働き手が少ないというのは私も耳にしているので、移住から子育て、就学・就職できるような環境づくりについても考える必要がある。全国的に見ても、人口増となっているところは出産・子育ての環境が整っているところが多いので、その辺りの整備も必要かと思うが、町内に産婦人科が無い点は課題である。

最後に、素案の2ページに「女性デジタル人材」とあるが、女性と分けた意味はあるのか。

事務局

該当箇所については、国の男女共同参画局にて用いていた言葉を使ったが、そぐわないというご意見があれば、戦略策定の際には修正していきたい。

③ 第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略のふり返しについて

第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略掲載事業調書を用いて、事務局から既存事業の主要な成果、反省点等について説明し、意見を聴取。

～委員意見～

岩島委員

「水産資源安定化対策事業」について、以前は鮭の稚魚の放流等やっていたいと思うが、現在はやっていないのか。

事務局

2年前までは実施していたが、獲れた分のお金で事業体を運営する体制の中で資金不足となり、現在は実施していない。

岩島委員

費用面で厳しいとのことであれば町の補助等も加えてやっていかないと今後どんどん負の連鎖が続いていくと思う。

次に地域おこし協力隊について、任期終了後のビジョンが見えないとのことだが、彼らが3年間の中で今後どうしていくのかのスキームづくり等働きかけしていく必要があると思う。

事務局

委員のおっしゃる通りで、部局ごとに3年間の過ごし方は異なってくるが、スキームの整理等していきたい。

佐藤委員

岩島委員の話に関係するが、以前地域おこし協力隊の方を講師として呼んだ際に、空き家について聞かれたことがあった。町内に残りたいが故の話だと思うが、町としては対応していないのか。

事務局

任期中の住まい探しや終了後の拠点探しについても相談しながら手伝っているが、我々が持っている情報では足りないこともあり、町民の方々にご相談させていただいている。町としてのバックアップも引き続き行っていくが、そちらについてもご協力をお願いしたい。

佐藤委員

「UIJ ターン新規就業支援事業」における反省点について、「要件に合致しない」とあるが、こういった内容なのか。

事務局

要件としてはマッチングサイトに登録している事業者に就職するといったものであるが、現状町内で登録している事業者が1件であるため、これを増やさない限り課題の整理はできない。

佐藤委員

もう少し間口を広げる必要があると思うが、その点についてどう考えているか。

事務局

委員のおっしゃる通りである。原課においても登録件数を増やす取組を行っているが、現状1件に留まっており、いただいた意見を参考に事業の存続や改善について検討したい。

佐藤委員

地域おこし協力隊の募集について、企画振興課や農林課が多いと思うが、他の課で導入したいといった声は無いのか。

事務局

現在隊員は企画振興課・農林課・体育課に所属している。募集については企画振興課・農林課・商工労働観光課にて行っているが、現状募集は来ていないため、反省点でも触れているがより具体的な人材募集が必要であると思う。

伊藤委員

同じく地域おこし協力隊の募集について、別の考え方として様々な知見のある大手企業や商社からの派遣であったり、オンライン上での課題解決といったものもあるので、今行っている取組以外もやった方がいいと思う。

また、各事業について、第3次の際には横滑りなものでなく将来の森町のためになるチャレンジなものにしてほしい。

事務局

前半のお話しについては地域おこし企業人や地域プロジェクトマネージャーのことだと思うが、全国で事例も増えており今後必要になってくると思うので、活用を視野に入れていきたい。また、後半の部分についても併せて事業の吸い上げの際の参考としたい。

④ 今後のスケジュールについて

令和7年4月中の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の策定に向けた準備を行う。

令和6年度第3回の開催について、令和7年2月に書面による開催を予定。

4. その他

岡嶋町長

町長に就任してから本会議に参加させていただいており、皆様のご意見を直に聞き、担当

課と様々な話をしているが、多くのご意見をいただいていると実感している。外部との連携等非常に重要であると認識しているので、引き続きお願いしたい。

5. 閉会